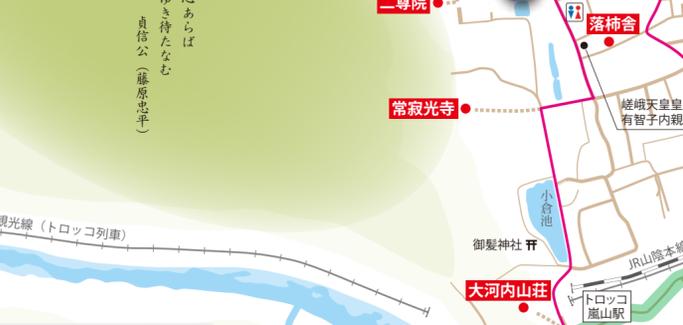


### 小倉山荘（時雨亭）

定家が百人一首を編集したとされる「小倉山荘（時雨亭）」とは、どこのことでしょうか？

現在、常寂光寺には「時雨亭跡」碑や「小倉百人一首編集之地」石碑など、また二尊院には時雨亭跡の石積みがあり、さらに厭離庵には「小倉山荘旧址厭離庵」石碑や参道入口付近に「中院山荘跡」胸札があり、この3ヶ所が候補地とされています。未だ正確なところはわかりませんが、定家の山荘は常寂光寺仁王門北、つまり二尊院南の付近にあり、厭離庵付近は僧蓮生の中院山荘跡とする説を探る人が多いようです。

皆さんはいかがお考えになるでしょうか？定家が小倉百人一首を編集する風景を思い浮かべながらこの辺りを歩けば、新たな発見があるかもしれません。



### 小倉百人一首

「小倉百人一首」とは、藤原定家が撰者として百人一首として最も古いものとされています。その後、多くの模倣作品が創作されたため、それらと区別するため、山荘の地にちなんで『小倉百人一首』と呼ばれるようになりました。その成立過程を示すものとして、『明月記』及び『百人秀歌』等が重要な資料とされています。『明月記』は、定家が19歳から74歳まで書き綴った日記です。定家74歳の時に、息子である為家の妻の父、宇都宮頼綱（法名：蓮生）の求めにより嵯峨中院山荘に飾る障子色紙形を染筆したと書き記しています。『百人秀歌』は、百人一首と配列は異なりますが、97首の歌と98人の作者が一致します。この『百人秀歌』の出現により、百人一首の撰者は定家であることが確定的となりました。

#### 百人一首に撰歌された勅撰和歌集

和歌集名	下命者	撰者	成立年	撰歌数
① 古今集(※1)	醍醐天皇	紀貫之ら4人	905年頃	24首
② 後撰集	村上天皇	清原元輔等5人(※2)	956年頃	7首
③ 拾遺集	花山院	花山院(※3)	1006年頃	11首
④ 後拾遺集	白河天皇	藤原通俊	1086年頃	14首
⑤ 金葉集(※4)	白河上皇	源俊賴	1126年頃	5首
⑥ 詞花集	崇徳上皇	藤原頼輔	1151年頃	5首
⑦ 千載集	後白河上皇	藤原俊成	1188年頃	14首
⑧ 新古今集	後鳥羽上皇	藤原定家等5人	1205年頃	14首
⑨ 新古今集	後堀河天皇	藤原定家	1235年頃	4首
⑩ 新古今集	後嵯峨上皇	藤原為家	1251年頃	2首



京都の嵯峨嵐山は風光明媚な観光地として有名です。特に新緑の春や紅葉の季節は比類なき美しさで訪れる人を感動させます。平安時代後期に、藤原定家はここにある小倉山の麓に時雨亭（しぐれてい）と名づけた山荘を設け、そこで、現在、歌カルタ等で親しまれる小倉百人一首を編集しました。嵯峨嵐山は発掘調査でも様々な遺跡を確認していますが、比較的最近に小倉百人一首の歌碑が設けられたエリアを巡り、京都の代表的な観光地的美観ポイントを併せて紹介します。



# 嵯峨 嵐山

## 小倉百人一首ゆかりの地



発行 京都市・(財)京都市埋蔵文化財研究所

### 嵐山周辺の発掘調査

平安京の西の郊外にある嵯峨野は、天皇の離宮や貴族の別業が多く営まれました。近接する嵐山や大堰川（桂川）も古くから景勝地として貴族達に愛され遊覧や詩歌の名所でもあり、別業のほか寺院も建立されました。9世紀中頃には嵯峨天皇皇后・橘嘉智子（檀林皇后）が尼寺・檀林寺を建立し、鎌倉時代には後嵯峨天皇が亀山殿を造営され、その後も亀山・後宇多上皇の御所として使用されました。亀山殿は、大堰川の水を利用した園池と対岸の嵐山の景観を取り込んだ南庭を有していたとされます。そのほか室町時代には、後醍醐天皇が夢窓国師を開山として建立した臨川寺があり、また、足利尊氏は後醍醐天皇の菩提を弔うために天龍寺を建立しました。このような歴史と景勝地であることから、嵐山周辺は史跡・名勝に指定されています。発掘調査では、天龍寺南方で平安時代前期の庭園を発見し、また「大井」銘のある軒平瓦も付近からみつかっています。中世には亀山殿関連の建物基壇跡や庭園遺構、そのほか天龍寺・臨川寺関連の遺構も多数発見しています。

#### 平安時代

発掘調査では平安時代前期の庭園遺構が発見されています。庭園遺構からは園池・洲浜および景石の抜き取り穴がみつかっています。園池の規模は南北約8m、東西約37mもあり、東側に洲浜がありました。一緒にみつかった遺物は9世紀の前半のもので、須恵器の小壺（瓶子）や二彩の壺・緑釉の鉄鉢・灰釉の薬壺など仏教色の強いものが多いのも特徴でした。また、別のところからも平安時代の遺物は発見されており、「大井」銘の軒平瓦もみつかっています。

#### 天龍寺関係

室町時代の天龍寺関連の遺跡は、寺はもちろんのこと、その寺内町に関するものも発見されています。まず亀山殿の礎石基壇跡の上に造営された二つの土壇がみつかっています。大きいほうの土壇は長径が約8m、短径が約6mのものです。小さいほうは長径が約3m、短径が約1.5mのものです。天龍寺内の霊庇廟（足利尊氏が後醍醐天皇のために建てた廟）のものと考えられます。その他、各所でこの時期の堀や建物基礎と思われる石敷き遺構等多数がみつかっています。また、応仁の乱のものと思われる高熱で焼け爛れた瓦がみつかっています。



#### 亀山殿跡関係

鎌倉時代の亀山殿関係では、建物跡の地業や庭園遺構を発見しています。建物基壇は礎石敷とされるもので、石列で区画を造りその間に土を何層も入れ、つき固める版築という方法で形成していました。その後、この建物基壇は天龍寺の造営時に霊庇廟へと替わっていきます。礎石敷跡の発見場所より100mほど西側で四阿風の建物と景石や斜面にある石組み遺構からなる庭園遺構を発見しています。亀山殿南庭の可能性もあります。



### 京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435  
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265-1  
TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307  
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/  
入館無料・月曜休館（月曜が祝日の場合は翌日）  
開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）  
JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分  
市バス201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ



応仁・文明の乱の戦火で焼けた瓦



#### 臨川寺

臨川寺では、昭和40年代から発掘調査が実施され、焼失したと考えられる建物跡や庭園跡、石組みの溝などが発見されています。建物柱穴から大理石製の袈裟留具が出土しています。その後の調査では、主に溝や土坑等が検出されています。遺物では瓦類が多くみつかっていますが、その中には鬼瓦等もあります。また、土器類では瓦器等の器が多くみられません。

